

名古屋大学農学部・生命農学研究科同窓会関西支部  
**関西セコイア会同窓会報 第七号**

名古屋大学農学部・  
生命農学研究科同窓会

セコイア会



名古屋大学農学部・生命農学研究科同窓会 セコイア会

目次			
お知らせ			1
「旅」について	大賀久美子	昭54農化	4
近況ならびに同級生、寺田宗玄さんとのこと	駒田 肇	昭55林産D	6
乗り鉄を楽しんだ同窓会	馬路 泰藏	昭40農化	10
一泊二日の奈良 黄金瑠璃鈿背十二稜鏡と京七宝	野村 章	昭45農D	15
何度でも行きたいカナディアンロッキーの旅	加藤 壽郎	昭45農M	18

(ご寄稿いただいた順に、掲載しております)

(本冊子の著作権は冊子の著者およびまたは関西セコイア会が保持しています。)

## お知らせ

昨年11月、例年通り同窓会総会を開催いたしました。昨年で、関西支部発足から20年目の節目を迎えましたが、年一回の総会は、コロナ禍の3年間中止しましたので、今回で第17回目となりました。令和6年11月9日、大阪の中央電気倶楽部にて15名の参加者を迎え、楽しい一日となりました。例年、午前10時から総会議事を行い、続いて講演会を行っておりますが、この度

は、タカラバイオ株式会社参事、北川正成さん(昭61農化 M)から、「ゲノム解析技術の進歩と社会とのかかわり」と題してご講演をいただきました。コロナ感染の有無を判定する技術として脚光を浴びた PCR 検査技術について詳細なご説明をいただき、また、ライフワークとされてきたゲノム解析についてもわかりやすくお話をいただきました。一昔前、人間のゲノムの全解析をするという膨大な作業について見聞きし、その壮大な計画に驚愕したのですが、その後も、ヒトゲノム解析技術が更なる進歩を遂げてきているようです。今の時代は、個々人のゲノム解析というところまで進んできているようで、とんでもない時代になったものだと、今更ながら、科学技術の急速な発展に驚きました。

午後は、例年通り少し長い時間ですが、3時間にわたる懇親会を行いました。参加者全員から、順次お話をいただき、自己紹介、パーソナルヒストリー、近況、ご興味などについてお話いただきました。現職のみなさん、定年後のみなさんに、それぞれに深みのあるお話をいただき、とても楽しい時間をすごすことができました。名古屋大学農学部という同じ古巣を持つ人たちが、卒業後の人生をどのように生きてきたのか、また、これからどのように過ごそうとされているのかを伺うことは、興味深いですし、自らの今後を考えるうえでもとても参考になるのではないかと、いつもながら感じました。



## 今年度同窓会のこと

なお、今年度、令和7年の同窓会関西支部総会は、11月1日(土)を予定いたしております。

日時が近づきましたら、再度、ご案内いたしますが、予定しておいていただければ、ありがたく存じます。

日時：令和7年11月1日(土) 10:00~15:00

場所：大阪中央電気倶楽部

(支部長 加藤壽郎 昭45 M)

## 関西セコイア会の現在の役員

支部長	加藤壽郎 (昭45 農 M)
事務局長	寺前朋浩 (昭61 生 M)
会計	井野右文 (平4 農 M)
会計監査	野村章 (昭45 農 D)
顧問	入野哲朗 (昭54 林産)
顧問	駒田肇 (昭55 林産 D)
顧問	大賀久美子 (昭54 農化)
顧問	沖森泰行 (昭56 林)

## 「旅」について

大賀久美子(昭54農化)

私は一人旅が好きです。行きたいところに都合のいい時に行けるからです。若いころは自分で宿を取り、時刻表で列車を調べて旅行していました。でも最近は「お一人様同一料金」のツアーに参加しています。結構一人参加の人も多く、いろいろな話ができるのが楽しいですし、またその場だけの関係というのも気楽です。

特にここ数年ハマっているのが、往復フェリーで行く「弾丸ツアー」です。夕方大阪港や神戸港から出発し、翌朝九州に着きます。丸一日バスで観光してその日の夕方にフェリーに乗り翌朝帰ってくるというツアーです。夕方船に乗ったらまず風呂に入り、食べたいものを持ち込んで夕食。(レストランもありますが、船内のテーブルで各自持ち込んだものを食べている人が大勢です)食後は本を読んだりテレビを見たり(さんふらわあには各ベッドにテレビとイヤホンがあります)眠たくなったら寝る、朝目が覚めたら九州に到着しています。フェリーもさんふらわあ・阪九フェリー・名門大洋フェリー・宮崎カーフェリーと乗り比べも面白いです。今まで宮崎・霧島・阿蘇・柳川・高千穂・門司・萩・秋吉台・湯布院・別府・国東半島などに行きました。特によかったのは、高千穂・別府の地獄めぐり・国東半島です。とにかく往復フェリーと1日観光の代金が2万円前後なので格安です。ただ行きたいところをほぼ行きつくしたので、弾丸ツアーもそろそろ終わりかなと思っています。



そして最近ハマりだしたのが、ウォーキングツアーです。昨年の夏に「木曾路 11 宿場町を歩く」というツアーに参加しました。宿場間はバスで移動ですが、11 の宿場をガイドさんの説明を聞きながら歩きました。説明も興味深かったし昔の旅人になった気分でも楽しかったです。木曾路に味を占めて、冬に「しまなみ海道 6 つの橋を歩く」ツアーに参加しました。2 日間で 20 km 歩きましたが、疲れたけれどもとても気持ちよかったです。そのツアーに参加していた 70 代後半の女性は東海道・中山道・西国街道などをすべて徒歩で廻ったそうです。東海道や中山道は 30 数回かけて数年で廻ったと話していました。ガイドさんにお勧めのツアーを聞くと「初心者なら琵琶湖一周、次は富士山麓一周、僕のお勧めは甲州街道です」と言われました。



帰宅してさっそくネットで調べると、富士山麓一周のツアーがありました。一泊の 7 回ツアーで(最後だけ 2 泊) 約 1 年かけて廻るようです。1 回目は 3 月末にあり、すぐに申し込みました。今年は富士山一周を頑張ろうと思っています。

友だちからは「海外は行かないの?」と聞かれます。海外にも行きたいのですが、今は国内で行きたいところがたくさんあるし、元気なうちにウォーキングツアーを頑張ろうと思っています。

## 近況ならびに同級生、寺田宗玄さんとのこと

駒田 肇 (昭55 林産D)

2021年の春に長年勤めた会社を退職し、以来4年が過ぎようとしている。生活はガラッと変わった。毎日の通勤が無くなる時に気をつけなければと思ったことは、これまで通りの規則正しい生活。そして理想として、晴耕雨読の日々を送ること。確か、そうするからと同僚に告げて会社を去ったはずだった。

これまで読みたくても読めなかった本を読む。少しは家庭菜園で自ら作った無農薬の新鮮な野菜を食べる。それらが理想だった。しかし、どちらもなかなか思ったようには進まない。本は少しずつ読めるようになった。ただ最近読んでいるとすぐに小さな文字が眠気を誘う。知らぬ間に机の前で寝落ちしていることもある。だが時間は十分にある。また、小さな家庭菜園といえども、農作業は過



酷なものを知った。特に昨夏は、朝早くから作業に入っても、すぐに汗が吹き出し、力つきる。その上外敵が多い。いわゆる害虫だけではなく、地下からモグラ、空からはカラスやヒヨドリなどが攻撃し、また私のいる地域ではシカやイノシシ、ハクビシン(アライグマかも)などの夜襲により時期的確な作物奪取がある。これらには全く無力で、ただ泣いて悲しむしか術がない。そんなこんなで、退職前に思い描いた理想生活を実現するのは簡単ではない。けれど、これまでできなかった映画や演劇を観たり、出張ではできなかった楽しい観光の旅をしたりすることができるようになった。これまで苦手だった絵を描くことや外国語の再習得への挑戦なども含め、何をしようかと、ポーっとすることはない毎日を過ごしている。

そういった生活の基礎になるのはやはり健康で、毎年受けている人間ドックではいろいろな不具合が洗い出される。中でも脂質異常は簡単に治らない。しぶとい。ただ少しずつでも変化は見られるので、ここは日々の対策を継続するしかない。また、癌のマーカ―が不気味な警告を鳴らし続けてくる。自身の寿命を考えれば下手に慌てることは無いと自身に言い聞かせ静観しているが、いつ暴れだすかはわからない恐怖もある。身体だけが健康でも、頭がしっかりしていなければとの不安もある。日々の生活の中で、物忘れをするたびに老人性痴呆が遂に始まったかと不安になる。

脳に刺激を与え続けなければ痴呆になりにくいと聞き、毎年新しいことにチャレンジすることを決めた。前述した絵を描くことや語学の習得などはそんな思いから始めたものだ。最近では一人キャンプに興味を持ち取り組みかけたが、暑すぎたり寒すぎたり为天候に振り回され停滞している。いずれにせよ、多くの興味を引き付ける趣味によって脳を刺激する脳活をしながら生活することを心がけている。

名古屋大学農学部で同級生だった寺田宗玄さんは、私が理想とする脳活の実践者だ。大学卒業後に勤めた奈良県庁を定年退職した後も多く趣味を持ち続け、第二の人生を充実させている。彼とは教養部時代 S1-51 でクラスメートだったころからの付き合いで、学生時代には休みになるとバックパックで九州一周など一緒に旅行をした。彼の故郷である奈良には、学生時代から何度か案内してもらった。就職してからしばらくは年賀状だけの交流になっていたが、いつごろからか突然 Line が繋がって (Line はこういうことがたまに起きる)、以来再び親密に情報交換し交流を続けている。



寺田宗玄氏

寺田さんの趣味について語れば、まずは旅行。それに加えて社交ダンス、絵画、クロマチックハーモニカとある。そのどれもが私から見ればかなり高度である。例えば、社交ダンスについては、彼の説明によると、ステップにはスタンダード(ワルツやタンゴなど)種目とラテン(ルンバ、チャチャチャなど)があり、これら全てのステップを踏んで楽しんでいる。これだけでもすごいと感心するのだが、彼が社交ダンスを始めたのは、なんと 50 歳からとのこと。たくさんのステップを覚えるのも大変だったろうと想像に難くない。先日、ダンスパーティでの自身の踊りを動画で送っていただいたので観たが、タキシードを着て背筋をピンと伸ばして踊る姿はなかなか格好が良い。同じ歳で猫背の自分が情けなくなってくる。



ダンスパーティにて

彼が楽しんでいるクロマチックハーモニカというのは、4オクターブに亘って半音も含めて音階が出せる楽器で、これ一つでジャズから演歌までなんでも演奏できる。彼の演奏を聴いたところ、“ほんとに一人で吹いてるの？”と思うほど和音が奏でられる。舌先をどう動かしているのだろうか？このハーモニカを2020年から始めたということなので、まだ始めてそれほど日は長くない。しかし、ほぼ毎日練習しているということなので、脳を強く活性化するのに役立っているに違いない。

また、彼が描く趣味の絵は水彩画で、退職した後2021年末から始めたという。その絵の特徴は、下書きなしでいきなり黒のペンで描き始め、その後に色付けをすることにある。見たものを素早く絵にする技術は、これは天性のものだろう。さらに最近、新たに絵画教室に通い始め、本格的に絵の勉強を続け始めてもいる。学生時代に彼の絵を見た記憶はなく、すごい能ある鷹だったんだ、と今になって感心する。色付けのセンスも素晴らしく、静物画など私のお気に入りになっている。



スケッチ画

彼の古くからの趣味である旅に関しては、私は学生時代以降のことは良く知らなかったのだが、国内は全都道府県を制覇し、海外も既に50カ国以上も回っているという。今でも何度も旅行に出かけている。彼に海外旅行で印象に残っている場所を聞くと、ロシアのエルミタージュを挙げてくれた。その他イスラエルやミャンマーなど、今は行きづらい所にもすでに行った経験があるという。ただ、南米だけにはまだ行っていないとのことで、これから機をみて出かけるつもりかもしれない。最近では旅先から写真がLineに送られてきたりするので、この先ひょっとすると突然南米からの写真が送られてくるかもしれない。



カンボジアにて中学生と



Line が繋がって交流密度が上がったこともあり、この3年ほどの間に私の住んでいる姫路に来てもらったり、逆に彼の住んでいる奈良へ訪ねていたりしている。奈良には私が行きたいところがいっぱいあって、申し訳ないと思いつつ、いつも案内をしてもらうことになる。この2年ほどで季節の良い時をみて、奈良市内や、斑鳩、西ノ京などを歩き回った。昨秋、薬師寺と唐招提寺を訪問した後、山の辺の道を二人で歩いた。最初は天理から桜井まで歩くつもりでいたのだが、途中で私の足が言うことを聞かなくなったため、あと少しのところだったがやめることにした。それでも家に帰ってみると実に3万歩を超えて歩いていた。この歳で良く歩けたものであると我ながら感心したが、これも友と連れ立ってくだらぬ話をしながら歩いているからで、一人では到底できない事だと思う。



イタリアサンタマッダレーナ村にて

そんな彼も一昨年には大きな手術を決断した。非常に心配していたのだが、前より強くなって無事に再会できた時は心から嬉しかった。余談になるが、実は彼が手術予定と聞いていたちょうどその頃に、安部晋三氏が奈良での選挙演説中に凶弾に倒れる事件が起きた。ニュースで安部氏が大学病院に救急搬送されたと聞いた時、そこは入院先の病院だと思い、これで彼の手術が延期になるのではないかと一人気をもんでいた。手術には影響はなかったが、おかげで彼の手術を強く記憶することになった。

寺田さんとの学生時代からの思い出は尽きぬほどあるが、今の私にとって彼は素晴らしい人生を歩み続ける手本となる友である。彼の生き方を見習って、これから私も自分の道を精進していこうと強く刺激を受けている。大学で良き友に出会ったと、時の神に感謝している。

寺田宗玄(むねはる)氏 (1975年 名古屋大学農学部 農芸化学科 醗酵教室卒)



## 乗り鉄を楽しんだ同窓会

馬路 泰藏 (昭40農化)

昨年8月4日(日)に四日市市で高校の同窓会があった。一人で神戸から四日市へ行くときは、これまで近鉄特急を使っていた。しかし、近鉄特急に乗るために大阪難波駅に行くには、近くの阪神新在家で普通列車に乗り、御影で梅田行きの特急列車に乗り換え、さらに尼崎で奈良行きに乗り換えと、かなり面倒である。そこで、同窓会が始まる時刻までには時間的に余裕があるので、JRの在来線を使い続けて行くことにした。さらに、乗車券はジバング(ジジババ)クラブの三割引が使えるので、コスパも一段とアップする。

神戸から四日市までのルートとして、二つが思い浮かんだ。一つは、東海道線で草津まで行き、草津線に乗り換えて柘植へ、そこから関西線で四日市に至るルート。もう一つは、大阪から環状線で天王寺へ、そこから関西線で四日市へ至るルートである。今回は後者のルートで行くことにした。

早速、インターネットの「駅探」サイトで列車の時刻を検索する。よく確認しないで「亀山」経由と入力したら、おかしなルートが長々と表示された。よくみると姫路近くにある山陽電鉄の亀山(兵庫)を指定していたのである。ちゃんと亀山(三重)経由として検索したら、大阪から大和路快速に乗り、加茂(京都)で亀山行き普通列車に乗り継ぎ、亀山で名古屋行き普通列車に乗れば、我が家から4時間足らずでJR四日市駅に着くことが分かった。

当日もあいかわらず暑い日だったので、大阪駅でペットボトルのお茶を買って大和路快速に乗り込んだ。てっきり大阪が始発駅だと思っていたが、なんと天王寺始発である。しかし日曜日の午前にもかかわらずガラ空きで、ゆったりと座席を確保した。環状線を一回りした列車が再度天王寺に着くと、多くの人がどっと乗ってきて列車は満員状態。私の近くでは賑やかに中国語がとびかう。奈良に着くと天王寺からの乗客はほとんど降りたことから、閑空で入国した外国人観光客だろう。インバウンドの影響の大きさを実感させられた。

奈良から三つ目の駅、大和路線の終点・加茂で亀山行普通に乗継ぐ。これまでは8両編成の電車だったが、ここからは2両編成のディーゼル車になる。運転手一人で運行するワンマンカー、一両の中にわずかの横座席(クロスシート)と大部分の縦座席(ロングシート)がしつらえられている。ノロノロと乗り込んだため、縦座席に座ることになり、車窓からの写真が撮れなくなってしまう

た。それ以上に困ったのは、トイレがなかったことである。そこで、慌てることはないとい伊賀上野でトイレ下車をして、次の列車が1時間後に来るまで辺りを散策することにした。

駅前に出ると期待していた商店街はなく、住宅地と小さなビルがあるだけだった。城や忍者屋敷のある伊賀市の中心部へは、伊賀上野駅から伊賀交通で上野市駅に行かなければならなかったのである。それでも、駅周辺を歩いてみることにした。

南へ少し歩いて信号のある交差点で西方をみると、南北に延びる堤防がある。堤防の上まで行くとその向こうは手前と同じような水田で、「にいゆうすいち」と書かれた国土交通省の看板があった。この堤防の先には東西にのびる堤防があり、こちらは川の堤防だった。



左が服部川の堤防、正面が遊水地の堤防



「にいゆうすいち」の看板  
後で気づいて遠くから撮ったのでピンボケ

この川は服部川で、私のいた所のすぐ上流で柘植川が合流し、すこし下流で木津川が合流している。木津川はその合流点からすぐ下流に川幅の狭い岩倉峡があり、洪水のきわめて起こりやすい地形になっている。それで、洪水による被害を小さくするために、木津川との合流点近くに新居遊水地(にいゆうすいち)など4カ所の農地が上野遊水地として設けられたのである\*。実は「にいゆうすいち」の看板をみたとき、遊水地堤防東側の堤内地\*\* (服部川の上流側)にある水田などを遊水地だと思い込んでしまった。そんなわけで、堤外地(下流側)の遊水地の状況を撮らなかったことは大チョンボである。



服部川にかかる伊賀上野橋  
この橋のすぐ上流が柘植川との合流点

全国的にみると、緑地や公園が遊水地として多く使われている。近年、線状降水帯による集中豪雨が河川の堤防決壊などによって大災害を起こす危険性が、これまで以上に高まっている。このような災害による被害を小さくするために、新たな遊水地も必要となろう。奈良県の大和川水系で農地を遊水池として使うことが提言されているとのニュースを聞いたことがあった。伊賀上野駅近くを散歩して、農地が遊水地に設定されている具体例を初めて知ることができたのである。

伊賀上野駅に戻って再び亀山行きの列車に乗る。途中、柘植でかなりの数の人が乗り込んできた。それで、京都近辺から津市や四日市市へ向かうのに、草津線・関西線を乗り継いで亀山を経由する最短ルートを利用する人がそれなりにいることが分かった。

亀山からの普通列車は4両編成の電車である。亀山では若い人たちが大勢乗り込んできて、ほぼ満席になった。中には浴衣を着た女性もいる。これは、四日市祭りに出かける若者たちであった。祭りで亀山市や鈴鹿市の若者を引き寄せる力を持っているなど、今でも四日市が三重県北部の中心都市であることが分かる光景だった。

今回利用した関西線では、大阪から四日市までの間に2度乗り継ぐ必要があった。私が高校生の頃、四日市から大阪へは湊町行き直通列車があったが、今は大阪・名古屋間の直通列車はない。ちなみに、湊町駅はJR難波駅と駅名が変わっている。また、当時は、全線電化されておらず、蒸気機関車(SL)のひく列車やディーゼル列車で運行されていた。高校へ国鉄で通学していた私は複線電化されることを願っていたが、名古屋・亀山間は電化だけが実現している。

同窓会の翌日は、3年前に亡くなられた恩師のお宅へ弔問。四日市あすなろう鉄道に乗って向かう。四日市あすなろう鉄道の線路幅は762mmのいわゆるトロッコ軌道である。日本の鉄道の線路幅は、他に1,435mm(標準軌)と1,067mm(いわゆる狭軌)があり、これらが大部分を占めている。前者は新幹線、阪急、阪神、京阪、近鉄主要路線などの、後者はJR在来線、南海などの線路幅である。しかし、トロッコ軌道の営業路線は、全国でも他には黒部峡谷鉄道と三岐鉄道北勢線の2路線しかない。その珍しさもあって、鉄道マニアがよく(?)訪れてくる。



改札口



乗車した内部行きの列車

2両編成の内部行きに乗る。当然のことながら、車内は狭い。窓際に一人がけの横座席がついている。縦座席にすると、両側に座った人の膝の間が横座席より狭くなるため、このようなしつらいになったのだらうと思った。けっこうよく揺れる。それでもかわいい電車のイメージが鉄道マニアを引き寄せるのかもしれない。



左：車両側面 右：連結部から見た車内

私が高校生の頃、三重県でトロッコ軌道の鉄道は三重交通の湯の山線、内部線、八王子線、北勢線があった。これらの中で湯の山線は、標準軌の近鉄湯の山線になり、一時期は温泉客の乗車を見込んで名古屋と大阪から直通特急まで乗り入れていた。北勢線は経営が三岐鉄道に移り、内部線と八王子線は四日市あすなろう鉄道となった。なお、八王子線は営業区間が短くなって、西日野までとなっている。同窓生の一人は、「四日市あすなろう鉄道が残っているのは、沿線に2つの高等学校があって生徒の通学手段として欠かせないからだろう」と話していた。

今回の四日市行きルートには、関西線経由を選んだ。関西線の四日市・亀山間は、参宮線の伊勢、鳥羽や紀勢線の紀伊長島、熊野などに行くこともあって何度か使っている。しかし、亀山から西へは、小学校の修学旅行の時に奈良まで乗っただけである。それで、大阪・亀山間の様子をみたい気持ちもあって、このルートを選んだのである。

はじめは、車窓からの眺めを楽しむだけのつもりでいた。しかし、高齢になると尿意が近くなるため、しかたなく伊賀上野でトイレ下車をした。それが、上野遊水地を知ることにつながったのである。

上野遊水地に関連して少し調べると、上野盆地の水が木津川を経て淀川に合流し、大阪湾へそいでいることを初めて知った。それまで私は、三重県の河川は東向きに流れ、伊勢湾にそそぐものだと思っていた。三重県に生まれ育ったにもかかわらず、布引山地\*\*\*の西側にある伊賀地域

について何も知らなかったことを思い知らされたのである。このように、思いもかけない知識を得た旅でもあった。

\*：上野遊水地の概要は下記の URL をご覧ください。

[https://www.kkr.mlit.go.jp/kizujyo/about/river/u21nmd00000010rc-att/ueno\\_yuusuichi\\_annai.pdf](https://www.kkr.mlit.go.jp/kizujyo/about/river/u21nmd00000010rc-att/ueno_yuusuichi_annai.pdf)

\*\*：堤防を境にして陸地側を堤内地、河川側を堤外地という。本稿では、遊水地側も堤外地として記述している。

\*\*\*：三重県西部には、北から鈴鹿山脈、布引山地、台高山脈が連なっている。なお、鈴鹿山脈の西は滋賀県、台高山脈の西は奈良県である。

## 一泊二日の奈良

### 黄金瑠璃鈿背十二稜鏡と京七宝

野村 章 (昭45農D)

昨年11月第76回正倉院展を訪れる機会があった。黄金瑠璃鈿背十二稜鏡(おうごんるりではいじゅうにりょうきょう)が展示されるという。前回の出展は2009年東京国立博物館だと言うから15年ほど前のことだ。今見なければもう見る機会はないと思い奈良に一泊しての観賞旅行を企画した。チケットは日時指定の電子チケットで購入すると入場券のQRコードが送られてきた。宿泊は奈良ホテルを予約して準備した。家内と2人でかけた。こんな旅行を企画したのには訳がある。家内は結婚前から京七宝の制作販売をしていた。縁あって結婚して鎌倉・横浜に住み野村総合研究所・野村生物科学研究所に勤務したが、昭和68年9月に野村生物科学研究所が閉鎖された際、京都に転居し塩野義製薬に勤務することになり、嵐山に家内の工房を兼ねた住居を構えることになった。家は比叡山を正面に桂川に面した場所で、春対岸には菜の花が咲き乱れ、桜の木も見事な花をつける自然のめぐみにあふれた場所であった。



退職後も信頼性保証関連のコンサルタントをしながら家内の仕事を手伝っていたが、最近では京七宝協同組合の事務局を引き受け業界のお手伝いもしている。そんな訳でこの際七宝についても紹介させていただく。

黄金瑠璃鈿背十二稜鏡は角型のガラスケースに陳列されていた。8世紀の制作と推定されているというから、21世紀の今日まで1300年も色あせず輝いている。数ある正倉院の鏡の中でも、七宝がほどこされているのはこの黄金瑠璃鈿背十二稜鏡のみである。世界にも類似品は発見されていない。正倉院で保管されたことにより紛失や破損をまぬがれ、今日まで制作当時の美しさをそのままに伝わっているのは感動的である。1991年から11年間をかけて田中輝和(東京芸術大学教授)により複製品の制作が行われ、その途中経過を示す資料も一緒に展示されていた。金属にガラス質の釉薬を焼き付ける七宝により背面を飾った金板と銀板を使った豪華な鏡である。複製品を完成させた田中輝和は報告書の「あとがき」で、「黄金瑠璃鈿背十二稜鏡が、どの国で作られたかについて、作業を通じて、試みながら創作された宝物であり、日本で作られたものではないかを感じている。(後略)」などと記載している。

日本での七宝の初見は700年代飛鳥時代の牽牛子塚古墳より出土した天智天皇・天武天皇の母である斉明天皇の棺に使われていた七宝の飾り金具である。なお日本で七宝は室町時代にはすでに産業として作られていた。京都では公家文化のもとに桂離宮、修学院離宮、曼殊院などで釘隠しやふすまの引手として創られ、今も建物の飾り金具として見る事が出来る。

現在京都で制作されている七宝の工程は①デザインに沿って銀板や銅板を切る。必要に応じて金属の周りを装飾し、アールをつける。②無色透明の釉薬・白透(しろすけ)をのせ、裏と表に下焼きを施す。その上から用途に応じて1.2mm前後の幅の平銀線を使い模様をつくり糊で仮付けする。約750℃の炉に入れ線を焼き付ける。③様々な色の釉薬を模様の中に筆又はホセで置く。④約750℃の炉で釉薬が溶けるまで焼く。施釉と焼成を繰り返し、満足のいく色を焼き付ける⑤グラインダー又は手で砥石を使い表面を美しく整える。⑥炉に入れて焼き艶を出す。又は最後まで砥石の番手を変えて研磨をする手磨きの方法もある。⑦バフ磨きをする。⑧金具などをつけて出来上がる。アクセサリなど装身具や皿、杯、瓶、額などが制作されている。

京七宝の近世の歴史については鈴木規夫、榊原悟編 昭和54年1月25日(株)マリア書房発行の「日本の七宝」の222頁に「京都七宝」として次の記載がある。

ちなみに並河靖之は京七宝の祖で青蓮院の近侍を長く務めた。「稲葉七穂・村尾勘三郎とともに会員組織で七宝製造を始めたが、明治七年並河は錦雲軒と分かれ曾我茂三郎と提携して新た



な業を起こし、その後約一年して並河の個人経営となった。(中略)以来有線七宝にその腕を奮い、東京の湊川惣助と共に明治の二大七宝家として宣伝されるようになる。稲葉七穂もその後錦雲軒を彼の個人経営として現在に続く稲葉七宝店の基を築いた。」

一方吉田光邦・中原顕二著昭和56年6月26日(株)淡交社発行の「中原哲泉 京七宝文様集」で並河靖之工房の工場長を務めた中原哲泉と並河靖之について詳述されている。「並河靖之は明治29年に東京の湊川惣助とともに帝室技芸員(現在の人間国宝)に選ばれたこと、三条大橋から三条白川橋一帯には、二十余軒の七宝業が軒をつらねる有様となった。現在もその業を続ける稲葉七宝店も明治22年の創業である。」などの記載がある。

稲葉は(株)稲葉七宝として100年以上の歴史を繋いだが平成6年(1994)に廃業した。家内は三代社長の稲葉勝己とは現役時代から同業者としての交流があり、かつて祇園にあった京都クラフトセンター主催の中国旅行では、同行し北京の国立七宝工場を見学したこともあった。勝己は、退任後は嵐山に居を構えていたこともあり、出かける際には我が家の前を通るので時々立ち寄られることもあり交流が続いた。「京七宝」が京都府の京もの指定工芸品に指定された際にも、京都新聞の記事を見て立ち寄られ、大変喜んでくれたこともあった(京七宝協同組合15周年記念誌)。伝統産業を繋ぐ一助になればと思い書かせて頂いた。興味を持たれた方は清水三年坂美術館や並河靖之記念館などを尋ねられることをお勧めする。

博物館の観賞後は徒歩圏内にある奈良ホテルまで歩いた。ホテルの客室の窓からは奈良公園と春日山が見えた。夕食はあらかじめ予約してあったフランス料理をレストランで食した。奈良ホテルは1909年創業で創業時鉄道省と関係があり、今もJR系列のホテルとして運営されている。伝統あるホテルでやはり落ちついた雰囲気を感じられた。動画でみる館内ツアーがあり、プロローグ動画、鳥居とマントルピース、アインシュタイン博士とピアノ、本館ロビー桜の間、平成の大時計、擬宝珠(ぎぼし)、和風シャンデリア、貴賓用食器、長崎銀器などがみられるようになっておりそれらの場所にQRコードが準備されており、読み取ると画像が流れるしくみになっていた。翌日は法華寺を訪ね御開帳されていた国宝の十一面観音菩薩像や慈光殿の国宝 絹本三福 阿弥陀三尊像及童子像などを拝観した。ここでも仏像の前にQRコードが用意されていて読み取ると近接の仏像が映し出され部分の拡大像を拝観できるしくみになっていた。昼食後西大寺で途中下車したあと帰途についた。(完)

## 何度も行きたいカナディアンロッキーの旅

加藤 寿郎 (昭45 農D)

現役のころから、旅行が好きであちこちへ出かけました。国内では、有名な温泉やひなびた温泉を訪れ、また、東北や北海道にはレンタカーを借りて駆け巡って、新緑や紅葉の時期に自然を楽しみました。四国八十八か所は、安直に車で回りました。海外では、フランスやその他のヨーロッパの国で西洋の文化に触れ、特にフランスでは、語学留学で一か月ほど滞在もしました。旅行中に起こった印象的な出来事は、脳裏に深く刻まれその瞬間を鮮明に思い出すことができます。

そんな旅の中でも、心に残る旅の一つにカナディアンロッキーへの旅があります。あまりにも気に入ってしまって、3~4回は行ったと思います。東京からカナダのバンクーバーまで飛行機で8時間飛び、乗り換えてカルガリーまで行って、空港でレンタカーを借り、ロッキー山脈へ向かいました。現地で車を運転するため、行く前に国際免許を交付してもらい、空港で車を借りるときに免許証を提示します。国際免許の取得やレンタカーは簡単にできますし、現地の道路も複雑ではなく問題はありませんが、右側通行で運転するのはやや面喰います。交差点では右側車線に入るよう、特に気を使いました。

カルガリーからまずバンフという町に向かいます。ここがロッキー山脈観光への入り口です。この付近でまずは一泊して、次の日からジャスパーに向かう一本道をひたすら北上します。途中、切り立った岩山や、湖がたくさんあります。有名なポイントで車を止めて、湖をみたり、大氷原をみたり、トレッキングを楽しんだりしました。



ペイト湖はそれらのポイントの一つですが、駐車場に車を止めて、山道を少し上がっていくと、眼下に白濁した青い水をたたえたペイト湖が見えました。氷河から流れ込んだ水に微小な粒子が含まれており、日光が当たると波長の短い青色が反射して、美しいターコイズブルーに輝いて見えると言われています。背後にある山肌の縞模様も美しく見えました。

ペイト湖



他にもたくさんの湖があり、モレイン湖は美しい湖の一つです。写真が良くありませんが、背景の山々が初夏でも雪をかぶって美しく見えました。湖の色は見る角度によって変化するので、湖の周りを散歩しながら、風景を楽しみました。



モレイン湖

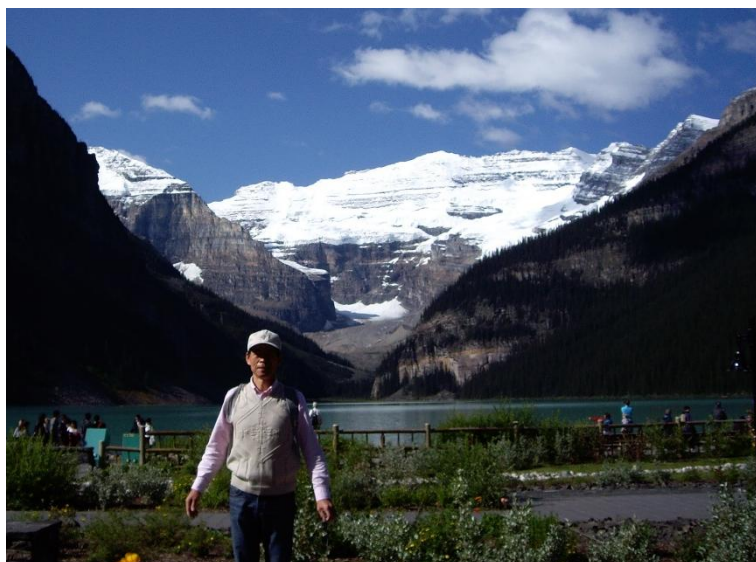
最近の地気温暖化で氷河も少しづつ後退しているようですが、ジャスパーに北上する道沿いにコロンビア大氷原があり、氷河の上まで雪上車で載せていってくれるので、行ってみました。大勢の観光客とともに、氷河のうえを歩くという貴重な経験をしました。

コロンビア大氷原



カレンダーの写真としてよく出てくる有名なポイントとしてレイクルイーズがあります。この湖と背景の雪をかぶった山とのコントラストがとても美しく、大勢の観光客が必ず立ち寄っているようです。大きなホテルもあり、一度宿泊したこともあります。個々のレストランのオニオングラタンが美味しくて、行くたびに毎回注文して楽しみました。この山の背後に、レイクオハラという湖がありそちらへも一度行ったことがあります。そこは、入山が制限されていて、駐車場からバスに乗り換えていくことになっており、そこで人数制限をしています。事前予約制ですが、予約が取れず、早朝に行って、何とかバスに乗せてもらい、雄大な景色をたのしむことができました。

レイクルイーズ



ジャスパーという町に到着し、そこで、安上がりの B&B に数日宿泊して、付近の観光ポイントを探索します。中でも印象的だったのはエンジェル氷河です。氷河がまるで天使が羽を広げているように見えるので、そのように呼ばれているようです。数度行きましたが、ある時、氷河の下に、氷が解けて空洞になっているところがあり、そのトンネルの中に入ったことがあります。写真のように素晴らしい自然の造形でしたが、実は、ここに入ることはかなり危険なことだったようです。いつ突然崩壊するかわからない状態だからそうです。

カナディアンロッキーの旅は、大自然を満喫でき、数多くの湖、切り立った山々、数々の氷河、森の中から突如現れる熊、針葉樹で覆われた森など、それぞれに大自然の営みを肌で感じ取る思いでした。もしできれば、もう一度行きたいとの思いです。



エンジェル氷河





編集後記 お陰様で第七号の会報をみなさまに配信することができました。ご寄稿いただきましたみなさまに感謝申し上げます。みなさまからのご意見、ご感想など、下記まで、お知らせいただければ幸いです。関西セコイア会のみなさま、今後ともぜひご支援のほどよろしくお願い申し上げます。

(支部長 加藤壽郎)

事務局長 寺前朋浩 [kssequoia23@gmail.com](mailto:kssequoia23@gmail.com)

支部長 加藤壽郎 [jardin-kato@hera.eonet.ne.jp](mailto:jardin-kato@hera.eonet.ne.jp)